

要校  
△日本輕銀工場争議  
大正十三年三月  
人員五〇名

勝利

△鮫江輕銀工場  
大正十三年四月  
人員二〇名

要校

△佐渡島伸銅所  
大正十三年四月  
人員一〇名

勝利

△菊水輕銀工場  
大正十三年六月  
人員一五名

敗北

△谷鑄造所争議  
大正十三年六月  
人員二〇名

勝利

△松尾アルミニウム工場争議  
大正十三年十月  
人員四〇名

勝利

△日本アルミニウム工場争議  
大正十四年二月—三月  
人員一五〇名

勝利

△谷鑄造所争議  
大正十四年三月  
人員二〇名

勝利

△東亞アルミニウム工場争議  
大正十四年五月

人員二〇名

△稻垣製材所争議  
大正十四年六月  
人員三〇名

勝利

△大阪銅業工業株式會社并に  
電明社會礦工場争議  
大正十四年六月—八月

敗北

△大阪會館合名會社争議  
大正十四年十月  
人員一〇六名

大勝利

争議合計 二十九件

争議人員 四八五六名

勝一五 要五 敗北九

犠牲者 三〇名

合計二十九件の争議中、吾人の腦裡に深く刻み付けられたいもの、能わらざるもの三つある。住友伸銅所の争議、小西松樹の争議及び日本アルミニウムの争議、此れである。前者は長い間築き上げた伸銅工組合を根柢からくつがへし、中者は犠牲者を多数出せ、後者は我等の團結権を奪はれた。この三つの争議は共に惨敗に終り、その案り大なるものがあつた。我等はこの三つの争議に依つて教へられた事の大なるものありし事を忘れざるべし。